

2022年3月期 第2四半期 決算の概要

2021年11月24日 訂正

株式会社今仙電機製作所
東証 1 部・名証 1 部 証券コード：7266

I. 2022年3月期 第2四半期決算概要

取締役 専務執行役員 佐竹 克幸

II. 2022年3月期 連結業績見通しの修正

取締役 専務執行役員 佐竹 克幸

III. 中長期経営計画2029の概要

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

I. 2022年3月期 第2四半期決算概要

取締役 専務執行役員 佐竹 克幸

II. 2022年3月期 連結業績見通しの修正

取締役 専務執行役員 佐竹 克幸

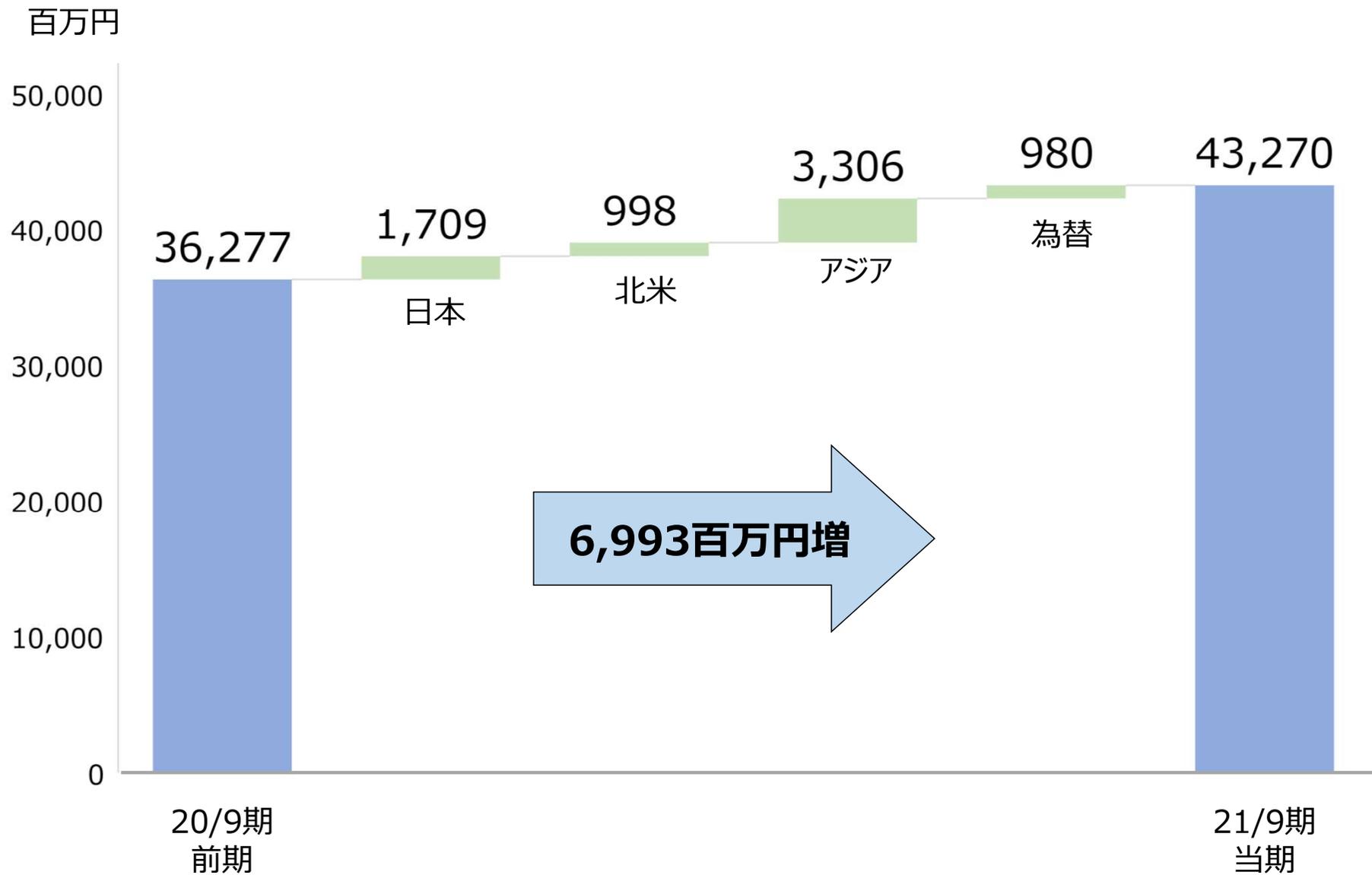
III. 中長期経営計画2029の概要

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

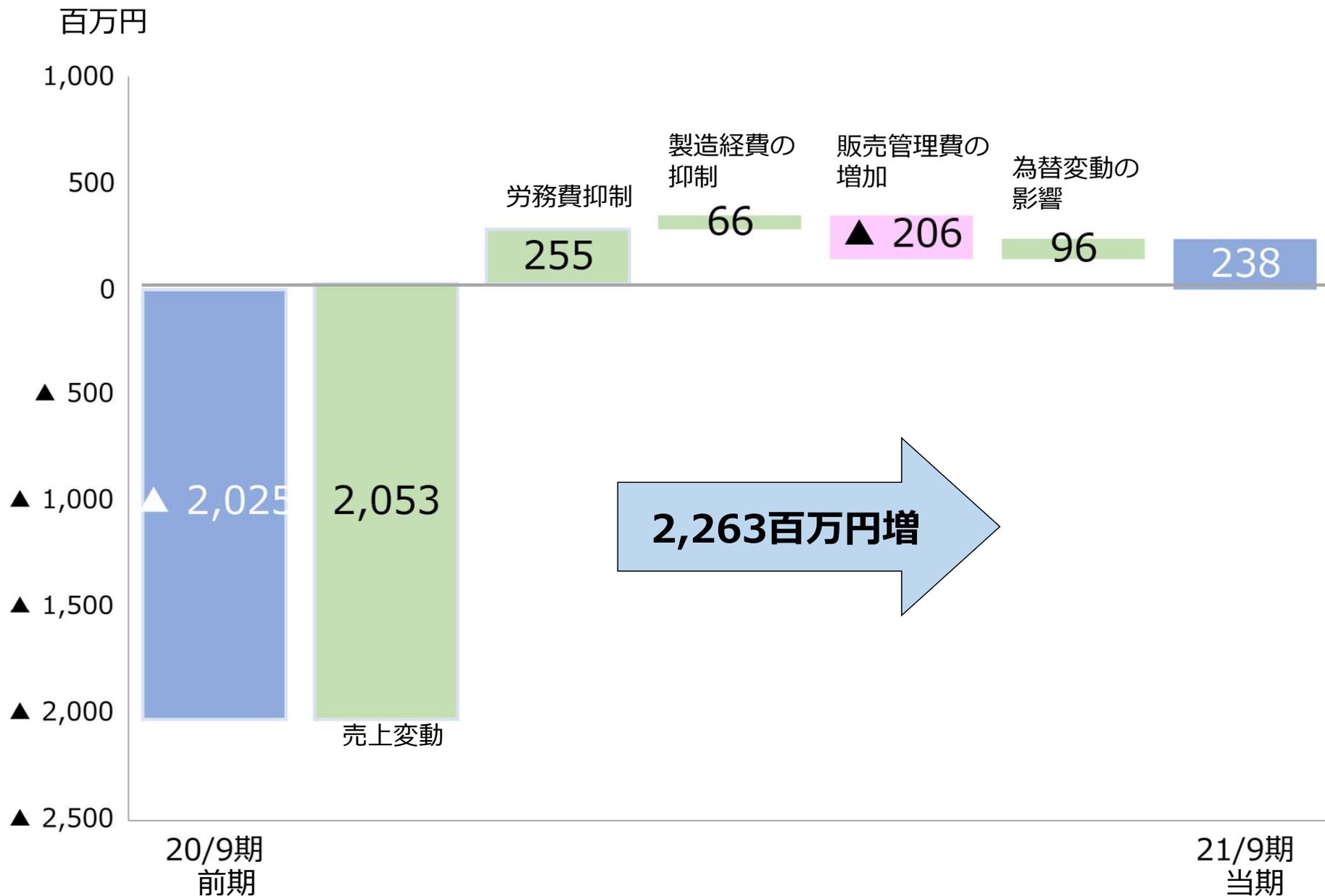
単位：百万円	前期 (20/9期)	当期 (21/9期)	増減額	増減率
売上高	36,277	43,270	6,993	19.3%
営業利益	▲ 2,025	238	2,263	—
経常利益	▲ 2,048	583	2,631	—
当期純利益	▲ 2,395	▲ 63	2,332	—
配当	5円	10円	5円	—

為替

USD : 20/9期	108.23円	→	21/9期	107.82円
CNY : 20/9期	15.38円	→	21/9期	16.67円
THB : 20/9期	3.43円	→	21/9期	3.50円



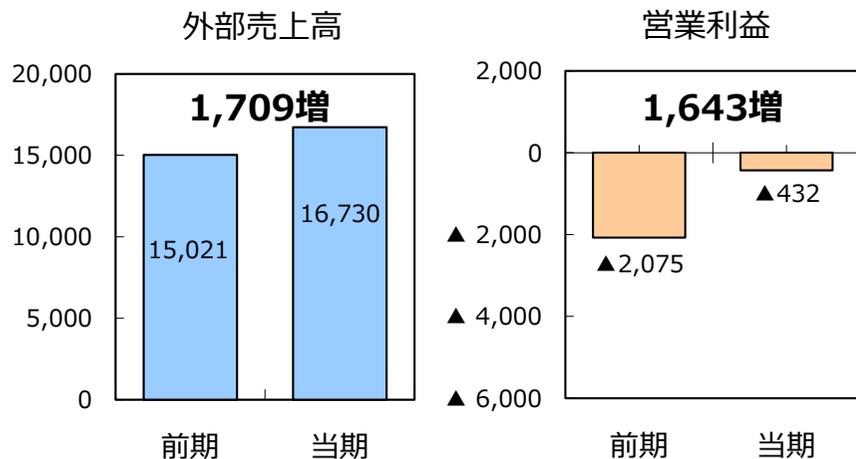
Challenge to New Imasen



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

国内



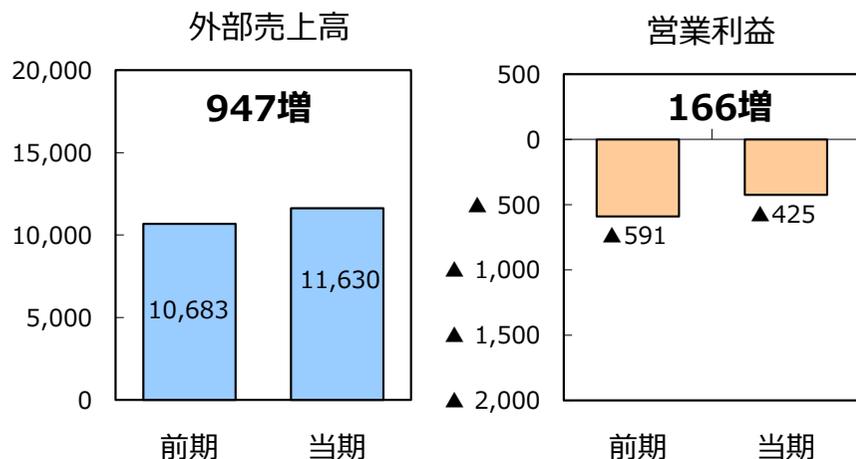
<売上高>

半導体影響があるものの、前期に対して生産増加となり増収となりました

<営業利益>

増収効果および原価改善により、営業損失は縮小しました

北米



<売上高>

半導体影響があるものの、前期に対して生産増加となり増収となりました

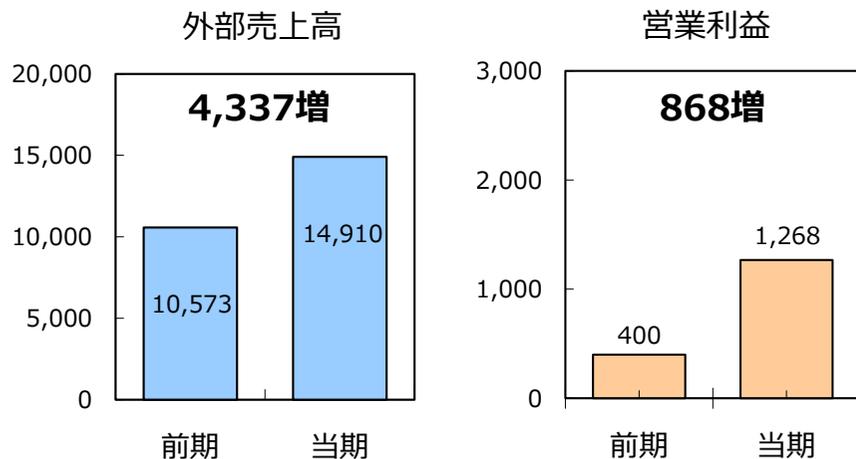
<営業利益>

増収効果および原価改善により、営業損失は縮小しました

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

アジア



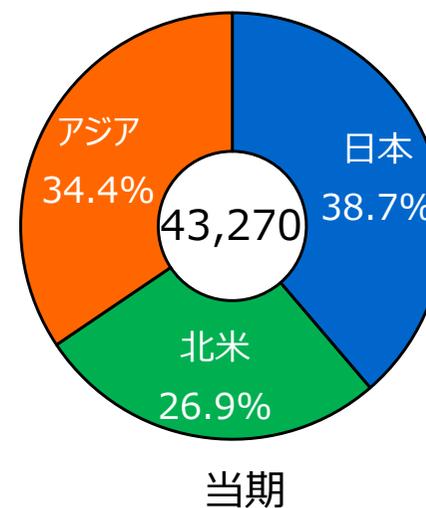
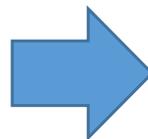
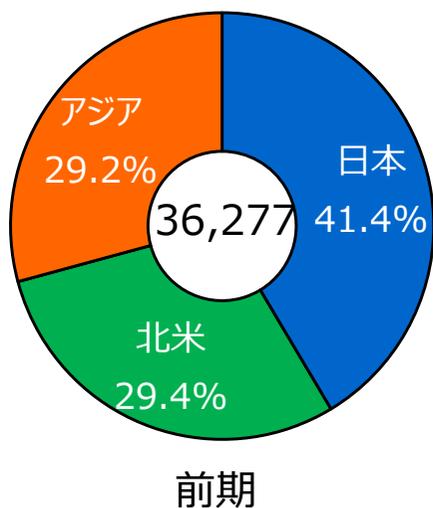
<売上高>

中国・タイにおいて生産が回復したことから
増収となりました

<営業利益>

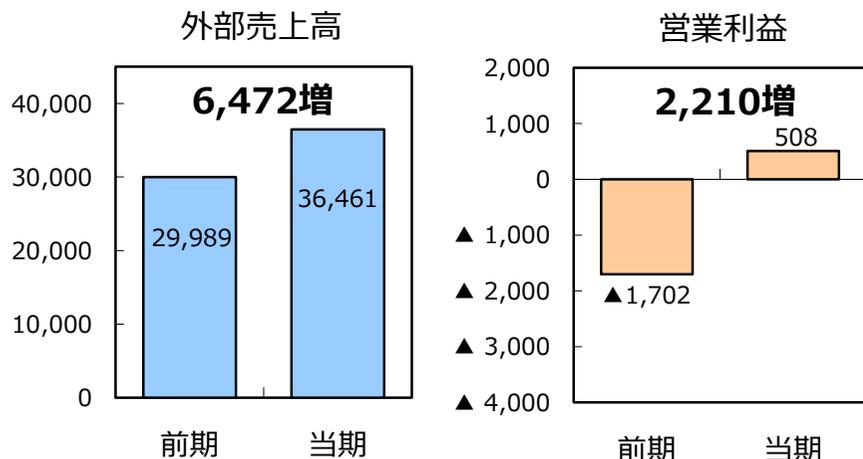
増収効果および原価改善により増益と
なりました

事業の地域別 売上高構成



(単位：百万円)

シート・電装事業



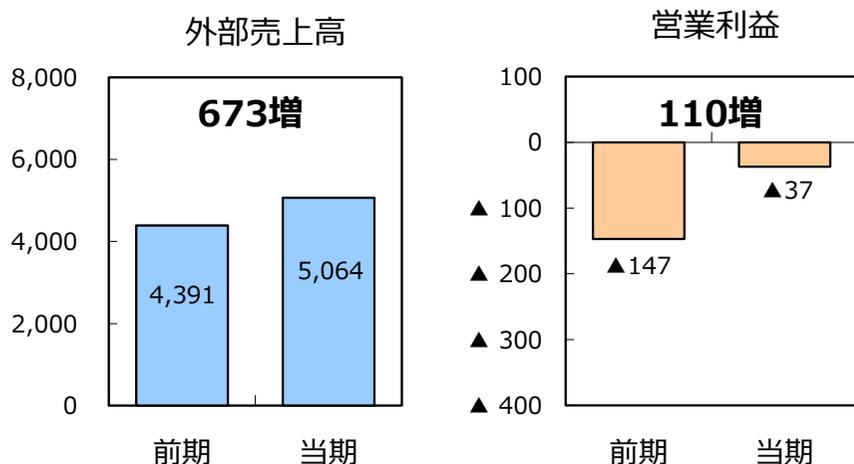
<売上高>

国内・アジアにおいて生産が回復したことから
増収となりました

<営業利益>

増収効果および原価改善により
黒字化しました

電子事業



<売上高>

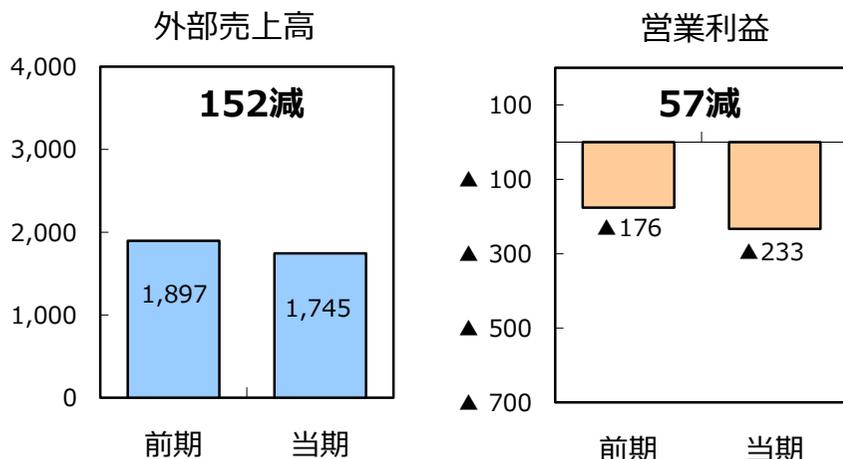
国内生産の増加により増収となりました

<営業利益>

生産性向上により原価改善を進めましたが、
半導体価格が上昇しました 営業損失は
縮小しています

(単位：百万円)

新事業



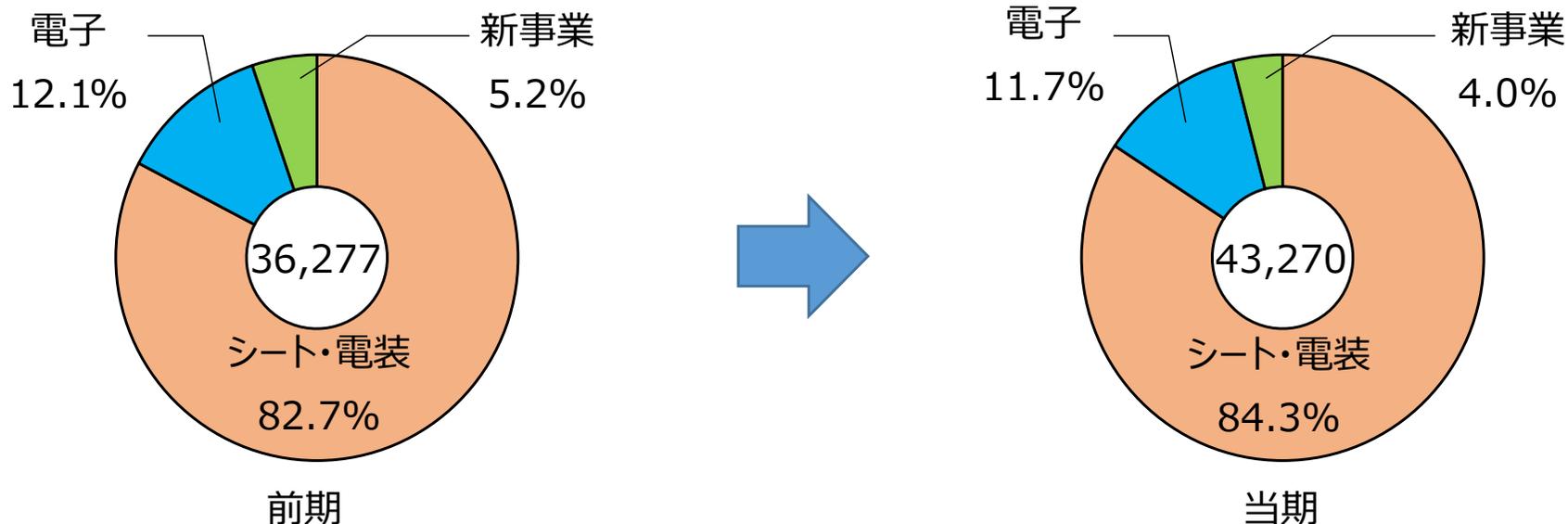
<売上高>

ハーネス事業は、工作機領域では改善しました
航空機・宇宙関連はコロナ影響による生産
減少から減収となりました

<営業利益>

減収影響により営業損失となりました

事業の種類別 売上高構成



(単位：百万円)

設備投資

	前期 (20/9期)	当期 (21/9期)	増減額
国内	694	1,221	527
北米	84	136	52
アジア	625	544	▲ 81
合計	1,403	1,901	498

- ・国内
電子事業強化のため、広島第2テクニカルセンターを建設しました
岐阜工場に太陽光発電を導入しました
- ・北米
省人・合理化設備を導入しました

減価償却費

	前期 (20/9期)	当期 (21/9期)	増減額
国内	※ 1,190	956	※ ▲ 234
北米	※ 167	158	※ ▲ 9
アジア	※ 592	575	※ ▲ 17
合計	※ 1,949	1,689	※ ▲ 260

- ・20年度の投資抑制により、減価償却費が減少しております

※の部分で訂正しております

I . 2022年3月期 第2四半期決算概要

取締役 専務執行役員 佐竹 克幸

II . 2022年3月期 連結業績見通しの修正

取締役 専務執行役員 佐竹 克幸

III . 中長期経営計画2029の概要

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

単位：百万円	当初予想 (6/7開示)	修正予想 (11/8開示)	増減額	増減率
売上高	92,900	86,300	▲ 6,600	▲ 7.1%
営業利益	1,590	100	▲ 1,490	▲ 93.7%
経常利益	1,760	490	▲ 1,270	▲ 72.2%
当期純利益	420	▲ 920	▲ 1,340	—
配当	20円	15円	▲ 5円	—

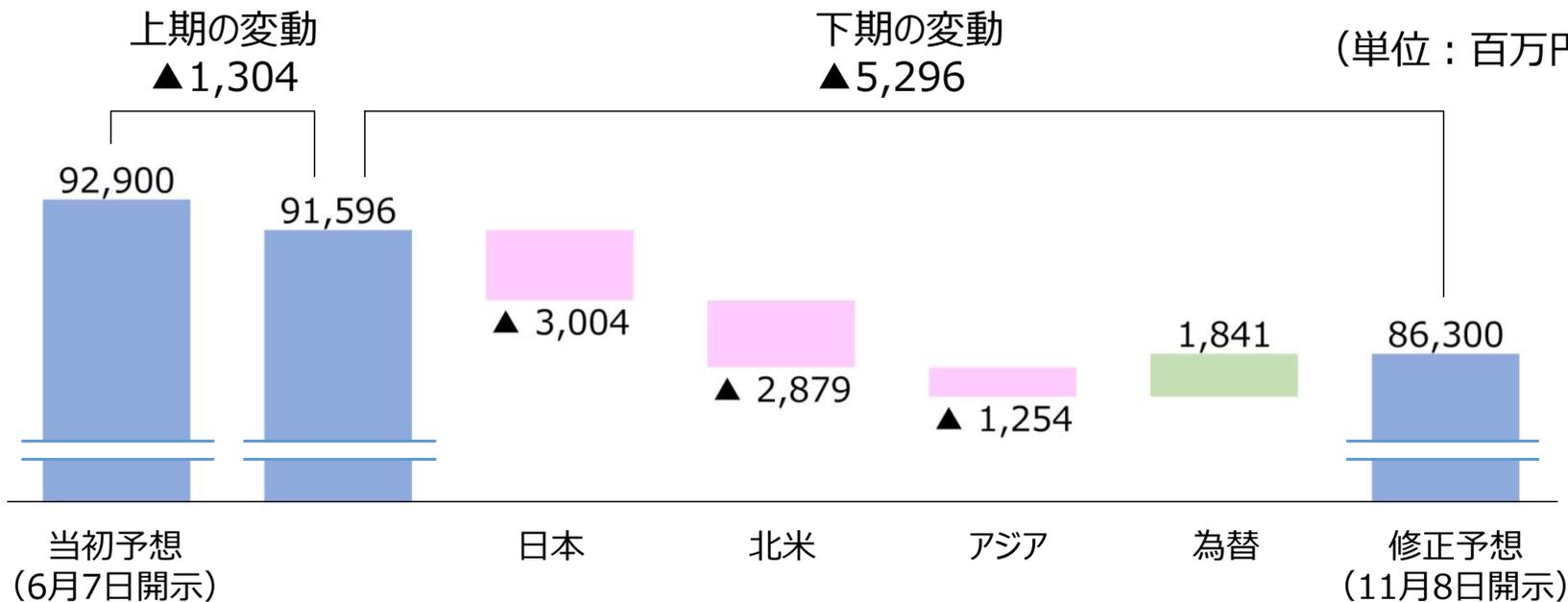
為替

USD：当初予想	105.00円	→	修正予想	108.92円
CNY：当初予想	15.25円	→	修正予想	16.85円
THB：当初予想	3.30円	→	修正予想	3.42円

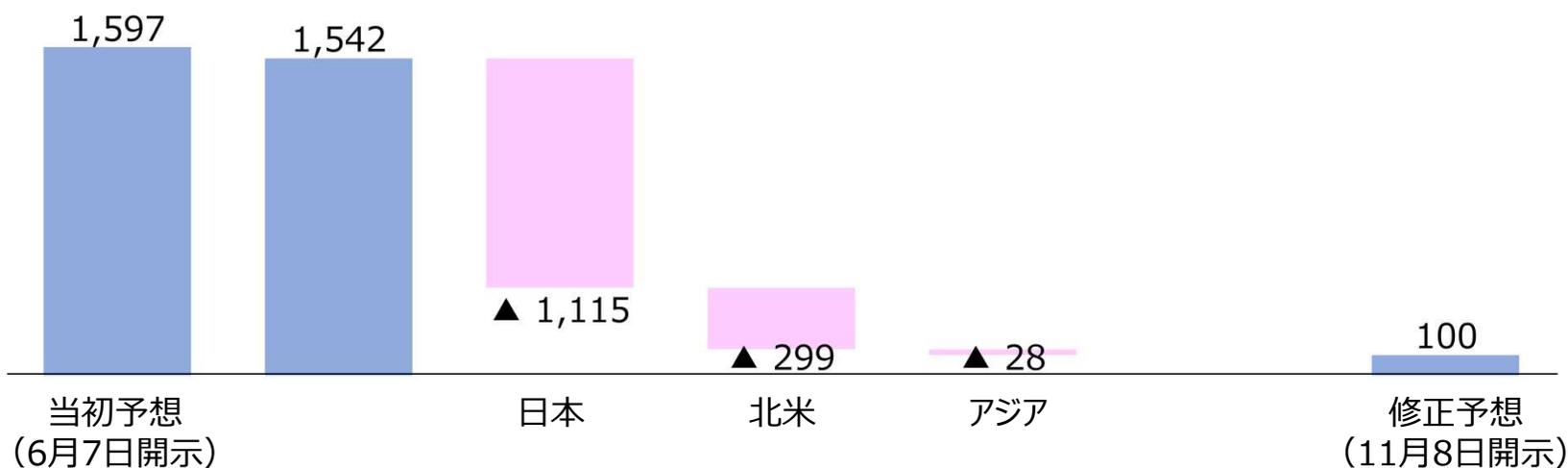
Challenge to New Imasen

(単位：百万円)

売上変動要因



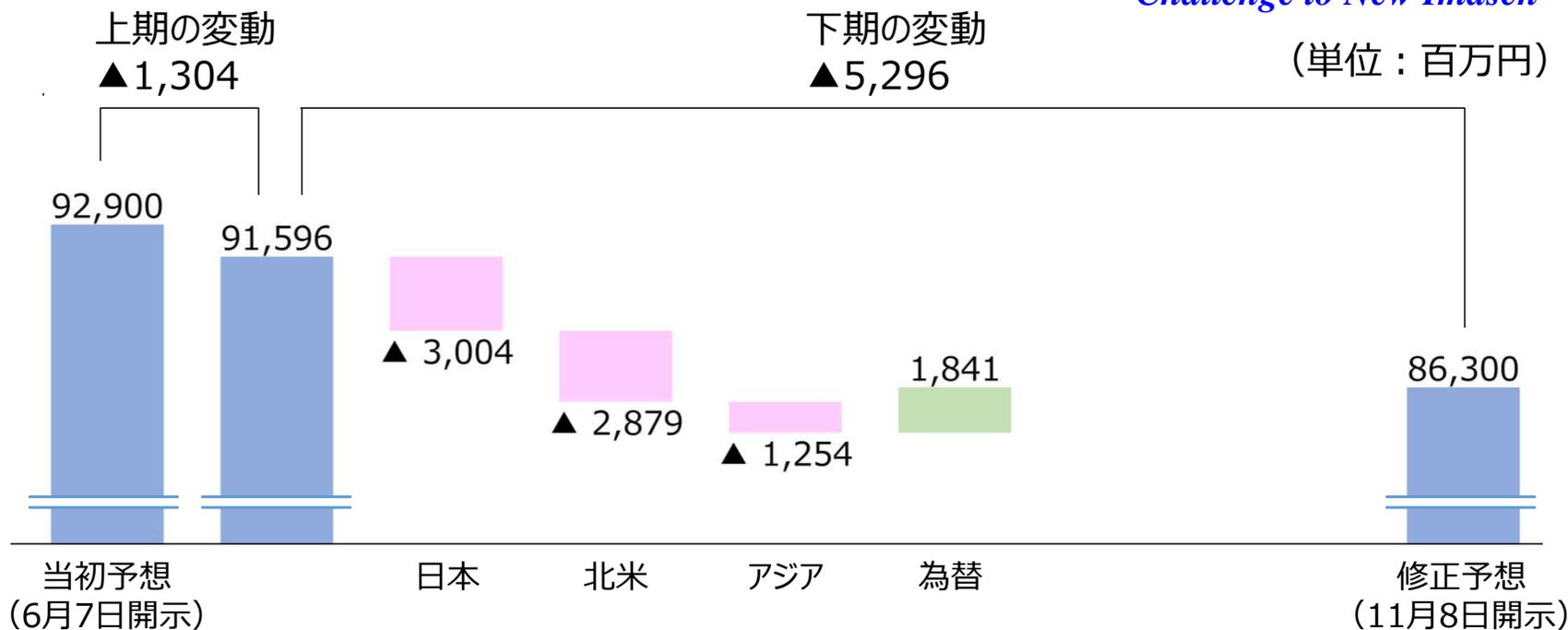
営業利益変動(地域別)



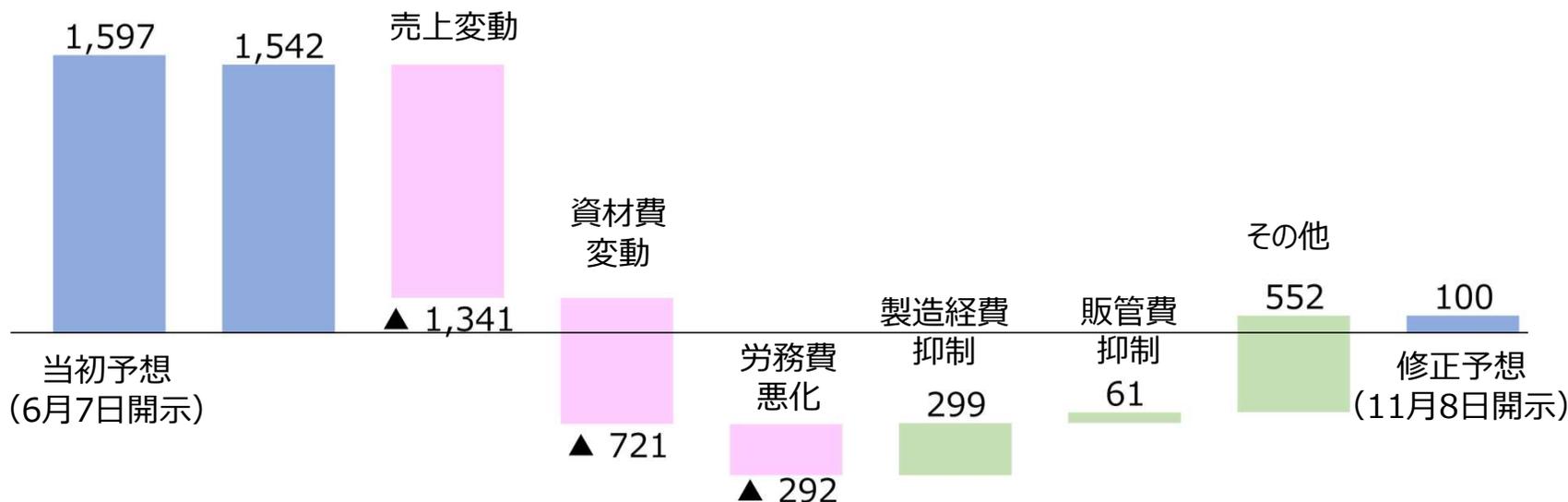
Challenge to New Imasen

(単位：百万円)

売上変動要因

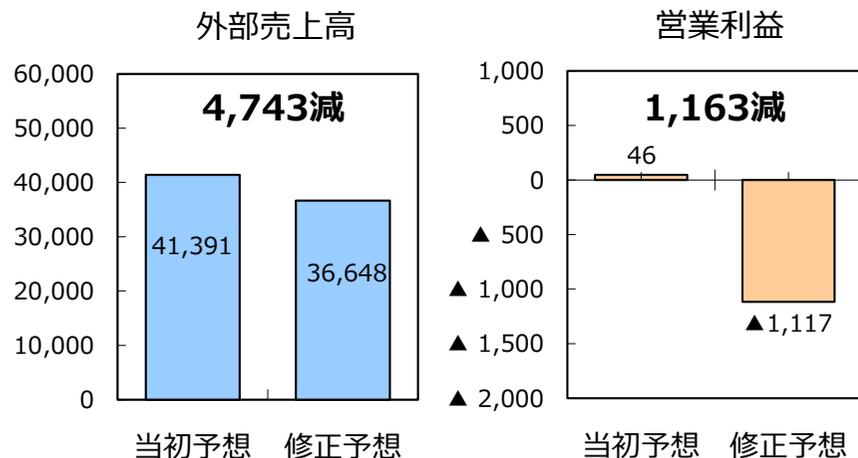


営利変動 (科目別)



(単位：百万円)

国内



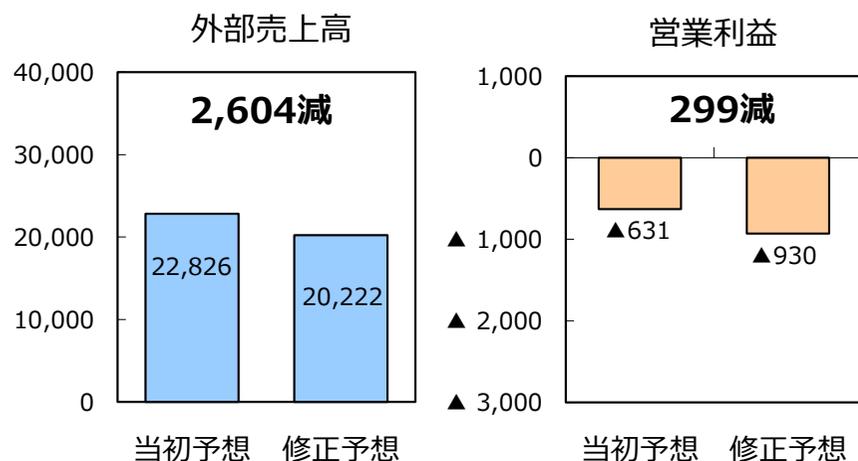
<売上高>

半導体不足影響による生産減少が期初
予想より長期化し減収となる見通しです

<営業利益>

減収影響に加え、原材料価格上昇に
より営業損失となる見通しです

北米



<売上高>

半導体不足による生産減少により減収となる
見通しです

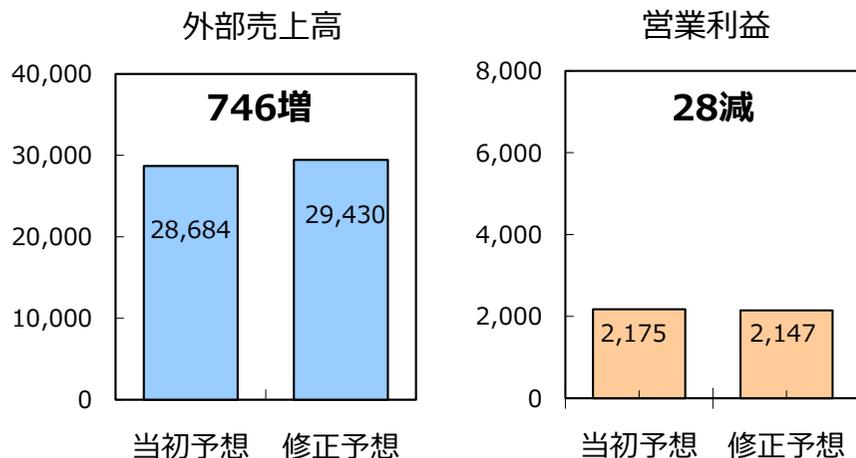
<営業利益>

減収影響に加え、原材料価格上昇に
より営業損失となる見通しです

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

アジア



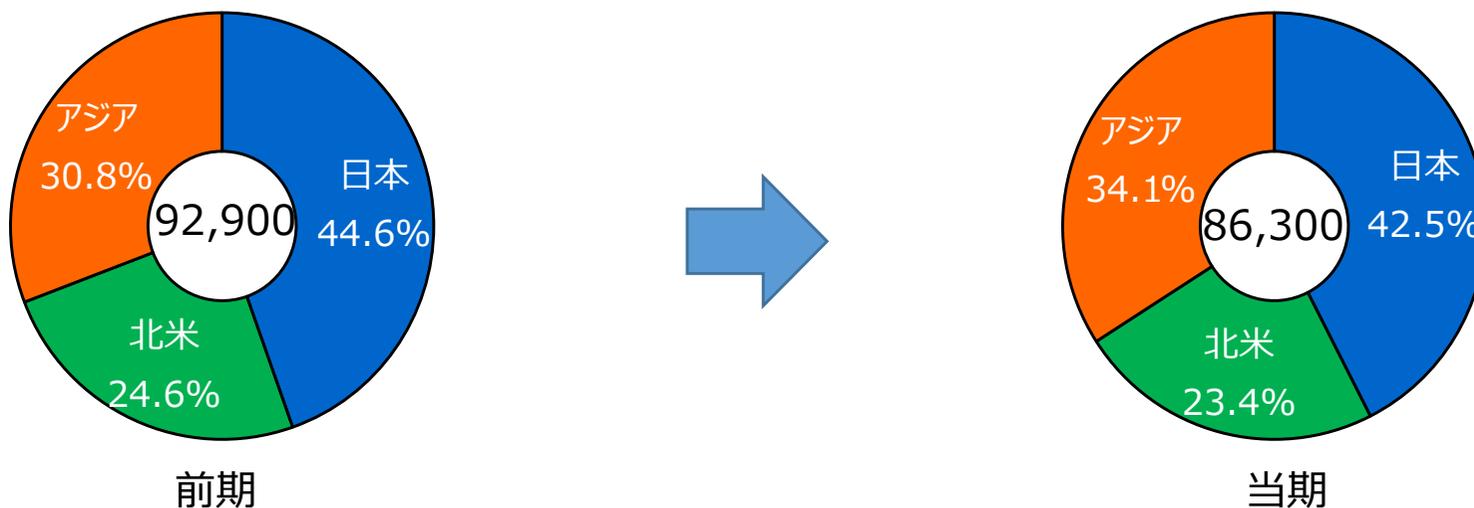
<売上高>

上期は大幅増収となりましたが、半導体影響の長期化から微増の見通しです

<営業利益>

原材料価格高騰の影響があるものの
ほぼ横ばいの見通しです

事業の地域別 売上高構成



I. 2022年3月期 第2四半期決算概要

取締役 専務執行役員 佐竹 克幸

II. 2022年3月期 連結業績見通しの修正

取締役 専務執行役員 佐竹 克幸

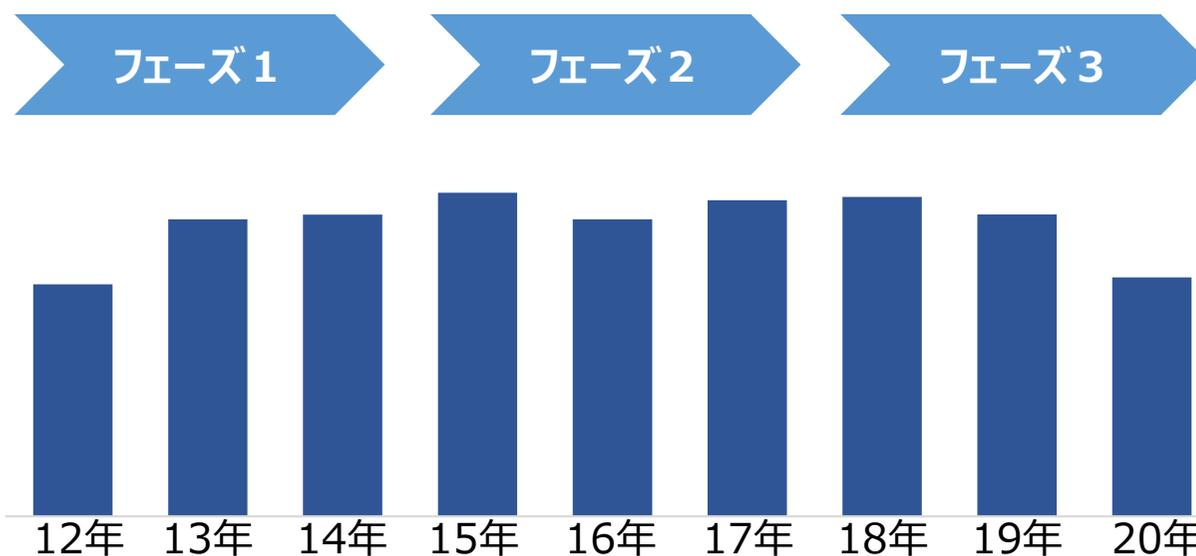
III. 中長期経営計画2029の概要

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

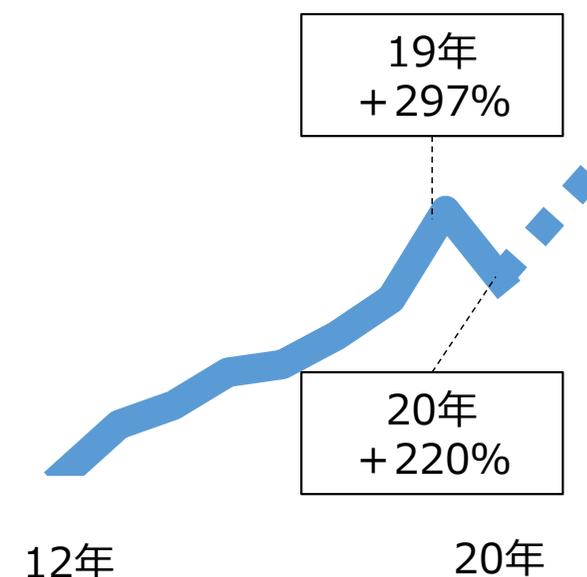
◆業績の推移 (2012~2020年度)

- グローバル事業に対応し海外進出(米国テネシー、中国 武漢、メキシコ、インドネシア)したことで、事業規模を拡大
- 北米の財務課題にテコ入れを行い、新中長期計画に合わせ新たなスタート
- 電子事業はボディー制御領域に加え、新たに省エネ領域・安全領域へ事業エリアを拡大
- 新たな事業基盤を創造する「IMASENグローバル開発センター」を開設

連結売上高推移



電子成長率推移 (12年比)



◆ 経営環境

マ
ク
ロ
環
境

経済

格差や成長鈍化により
引き続き、先々不透明

自動車業界

100年に一度の大変革期
業界や製品の構造が変化

ミ
ク
ロ
環
境

シート業界

引き続き、競争環境

電子業界

電動化の潮流が加速
市場拡大が見込まれる

不透明な環境において持続的成長を遂げるためには「事業の変革」が必要

◆ 経営理念・行動指針

経営理念

「信頼される企業」、
「挑戦し続ける企業」であることで
「社会に選ばれる企業」になれ

行動指針

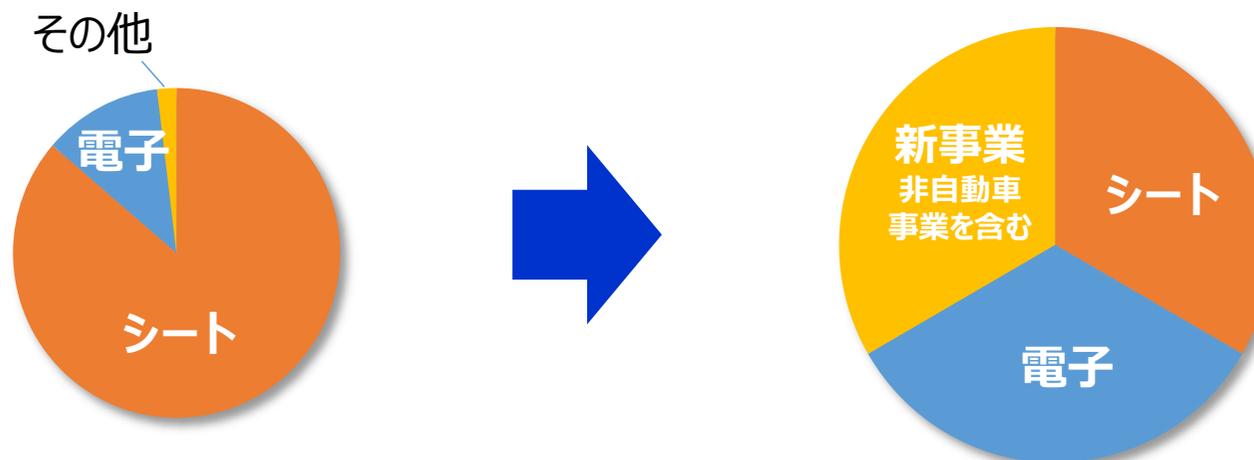
Trust & Challenge

◆長期ビジョン

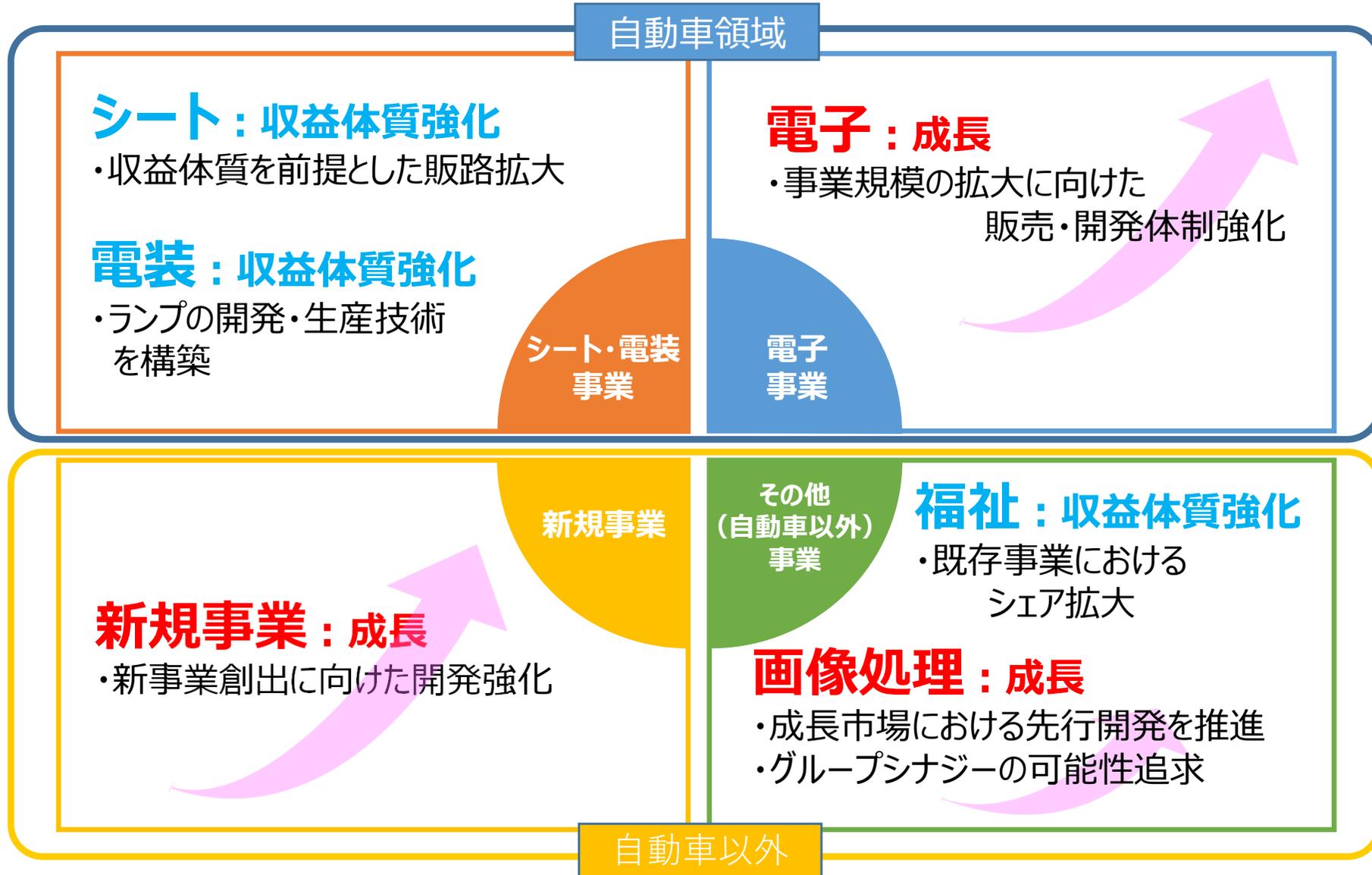
▶事業環境の変化の中でも、持続的にIMASENを成長・発展させるため

- ◆シート・電装事業 : 資本業務提携による売上・収益の向上
- ◆電子事業 : 自動車の電子化の中、既存の制御系製品に加え
省エネ・安全向上の製品領域へ事業拡大
- ◆新事業 : 既存の自動車以外の事業に加え、全く新しい事業を
創出する

「2事業領域で3事業を展開」することでバランスの取れた成長を目指す



◆各事業の方向性



◆重点施策



◆重点施策 ロードマップ

		玉込め (中長期フェーズ1)			挽回転換 (中長期フェーズ2)			成長復帰 (中長期フェーズ3)		
年		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
成長戦略	シート電装	顧客との関係強化			既存OEM商権拡大			新規OEM商権拡大		
		コスト競争力強化・リソースのリアロケーション						高収益製品比率の拡大		
		部品加工・設備内製化推進、生産・生産管理の自動化								
成長戦略	電子	新商品投入			既存OEM商権拡大			新規OEM商権拡大		
		生産・供給体制の構築						アライアンス強化		
		開発体制強化								
	新事業	開発・投資強化			新規事業確立			新規事業の成長		
経営基盤強化		資金管理強化			IFRS導入			次世代基幹システム移行		
		働き方・人事制度改革			人員のリアロケーション					
		ESG経営の推進								

◆フェーズ1 テーマ : Challenge to New IMASEN (2021年~2023年) の重点施策

	事業戦略	地域戦略
電装事業 シート	<ul style="list-style-type: none"> ◆収益体質を前提とした拡販 ◆競争力のあるコア部品の投入 	<ul style="list-style-type: none"> ◆最適供給体制の構築 ◆コスト競争力の強化
電子事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆事業拡大に向けた拡販 ◆開発・製造体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆EMSメーカーと連携して収益強化
新事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆新規事業創出に向けた開発強化と適切投資の充実 ◆グループ企業とのシナジー追求 	
経営	<ul style="list-style-type: none"> ◆ESG経営の推進体制の強化 ◆グループ企業統治体制の確立 	

シート・電装事業

◆顧客との関係強化

⇒ 昨年、資本業務提携を締結



共創によるシナジー
～7チームでの取組開始～

開発	軽量化技術開発
営業	共同受注
購買	集中購買・現調化
日本地域	生産設備技術開発 生産拠点の相互活用 物流改善 など
米州地域	
中国地域	
アジア地域	

■ 次世代技術による顧客開拓
共同開発・共同受注展開

■ 高効率事業運営
拠点・設備の相互補完

■ 高収益体質
集中購買・物流改善・現地調達化

フレームを含めた新技術提案を
競争力ある価格で実現

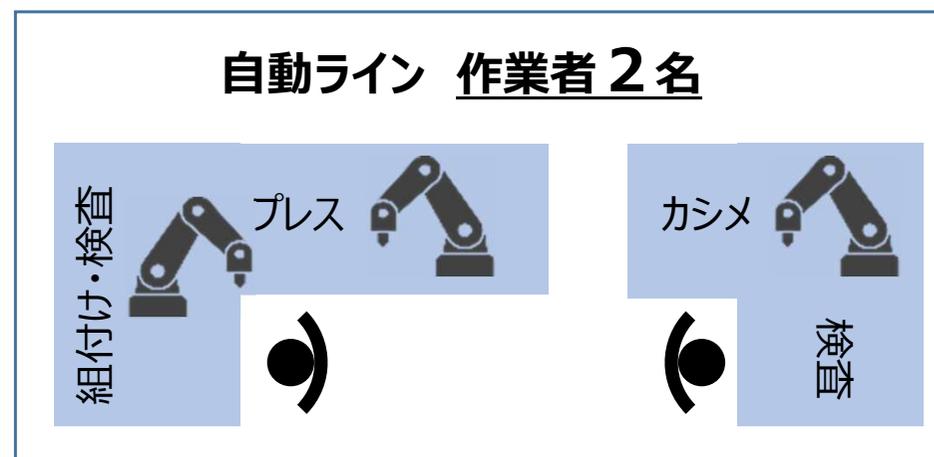
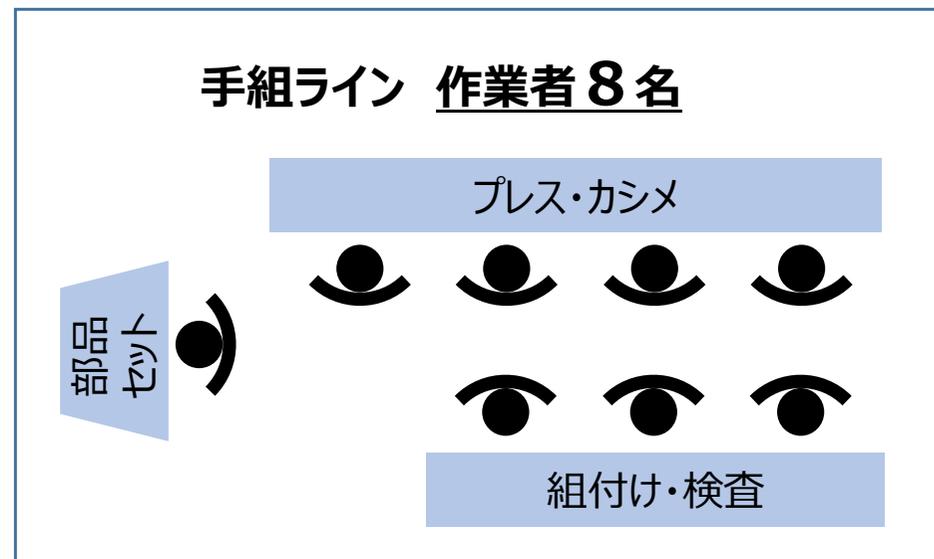
シート・電装事業

◆収益向上 コスト競争力アップ

日本の汎用ロボット・省人化組立ラインを
米国・中国へ拡大しました
作業人員を大幅に削減し、収益向上と
なりました
今後は溶接ラインへの応用展開も行い
ます



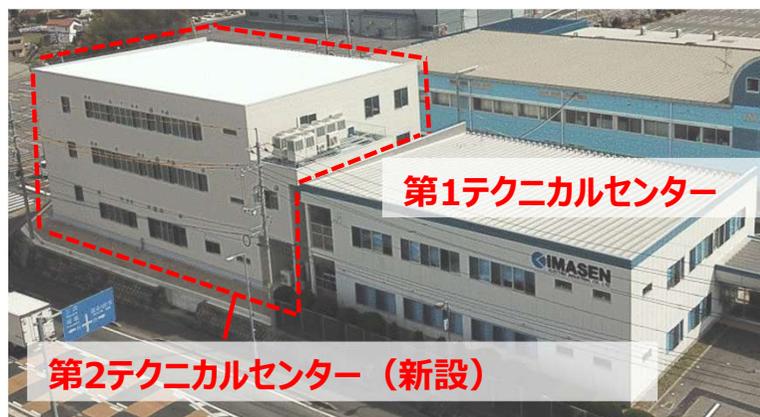
オハイオ工場に導入したロボットライン



電子事業

◆開発体制の強化

⇒ 広島に第2テクニカルセンター新設



今後さらに電子事業を拡大させるため

- ・エンジニアの増員
- ・開発ツールの充実

を行うため、広島テクニカルセンターの
拡充を図りました

電磁環境両立性評価やモータ駆動評価、
温度試験の実施を可能とすることで、開発
スピードが大幅にアップします



新たに導入した電磁環境両立性評価（EMC評価）設備

新事業開発

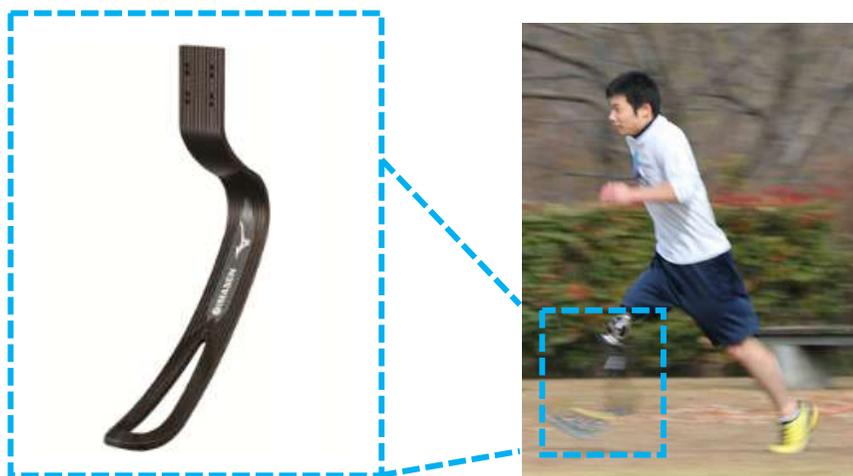
◆ 既存事業の成長



⇒ スポーツ用義足の共同開発



車いす・義足で「移動の自由」を提供する今仙技術研究所は、新たにスポーツ用品専門メーカー ミズノ株式会社と共同で「運動する喜び」の一助となる新たなスポーツ義足を開発しました。 アスリート向けに加えエントリーモデルも販売を開始しました



KATANA Σ

陸上競技トップアスリート向けモデル



(左) **KATANA α junior**

(右) **KATANA α**

初めて走る人向けのエントリーモデル

新事業開発

◆新事業の創出



⇒ 歩行測定システムの開発

IMASENグローバル開発センターは、人の「歩行」を簡便に可視化できる新しい歩行システムを開発しました

当社グループの保有する画像処理技術シーズを活かし、歩行者がマーカを身につけなくても歩く様子を撮影するだけで歩行特徴を可視化することを可能にしました

また、持ち運びできるよう軽量・コンパクトなシステムとしたことで、いつでもどこでも簡単に「歩行」を測定することができます



動画撮影による歩行測定



歩行の特徴を図・数値で可視化

ESG経営の推進

G 経営の透明性向上

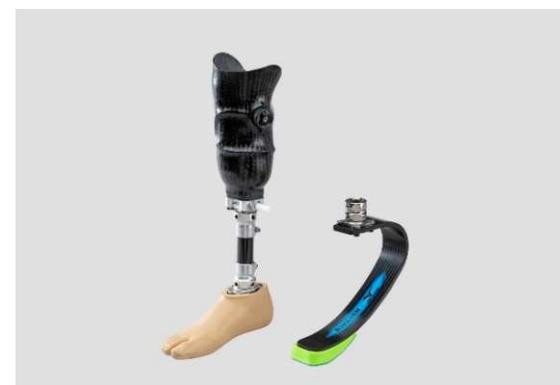
- ・本年6月の株主総会において3名の独立社外取締役を選任しました
- ・これにより取締役全体の3分の1が社外取締役で構成されることとなりました
- ・既に社外取締役・社外監査役を中心に構成される「指名・報酬委員会」も設置しています

今後も企業経営の客観性・透明性を強化して行きます

E 太陽光発電の拡大



S スポーツする喜びを提供



S 自由度の高い働き方

コアタイムを廃止し、任意の1時間以上を出勤とする柔軟性の高いフレックスタイム制度を導入

時間意識を高め、生産性向上による総労働の短縮、余暇時間の自由度を拡大させ、質の高いワークライフバランスを実現

Trust & Challenge

Challenge to New Imasen

- 本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- 実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所

グローバル経営事業部 経営企画課 IR担当

TEL 0568-67-1517

URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>